



報道関係者各位

2013年11月25日  
カンボジア政府計画省  
国際協力機構（JICA）  
カンボジア事務所

## ＝ニュースリリース＝

### 2013年中間年人口調査 確報結果公表

～生産年齢人口の占める割合は65.6%、今後の経済成長に期待～

カンボジア計画省のチャイ・タン大臣は、**2013年11月25日午前9時、プノンペンにて2013年中間年人口調査の確報結果を公表**しました。この式典には、同大臣のほか、マーク・デービュー国連人口基金（UNFPA）カンボジア事務所長、伊藤隆司 JICA カンボジア事務所次長ら関係者が列席しました。

この人口調査は、カンボジア統計法の第8条および指定政府統計に関する政令に基づくもので、実施にあたり、JICAは「政府統計能力向上プロジェクトフェーズ3」を通じた支援を UNFPA と連携しながら行ってきました。実地調査は**2013年3月3日から7日にかけて行われ、955名の調査員及び238名の指導員が、カンボジア全土から一定の方法により抽出された955調査区において調査**にあたりました。

カンボジアでは人口センサスを10年に1度実施することになっていますが、カンボジアの社会経済情勢が刻々と変化を遂げていることに鑑み、2つの人口センサスの中間年にあたる本年にこの人口調査が実施されました。なお、**今回の確報結果の公表に先立ち、本年8月15日に速報結果が公表**されています。

今回公表された確報結果は、**カンボジア政府の国家戦略開発計画（NSDP）、四辺形戦略等の評価および見直しやMDGsの指標更新等に利用**されていくこととなります。

### <確報結果の要旨>

#### 1. 人口

**2013年3月3日時点のカンボジアの人口は14,676,591人**。2008年人口センサスの確報結果では13,395,682人だったため、この**5年間に約128万人増加**したことになります。また、この間の年平均人口増加率は1.46%でした。1998年から2008年にかけての増加率が1.54%だったことから、カンボジアの人口増加率が低下傾向にあることが読み取れます。

#### 2. 国際比較

国連の世界人口推計（2012年修正版）によると、2010年のベトナムの人口は89,047千人で、カンボジアの6.1倍となっています。同様に、タイが66,402千人で4.5倍、ラオスが6,396千人で0.4倍、ミャンマーが51,931人で3.5倍となっていることから、**カンボジアの人口は、周辺国（ラオスを除く）と比較すると、やや少ない**ことが分かります。

2005年から2010年にかけての年平均人口増加率をみると、ベトナムは、0.94%となっています。同様に、タイが0.26%、ラオスが1.99%、ミャンマーが0.69%となっていることから、カンボジアの年平均人口増加率は、周辺国（ラオスを除く）と比較すると、やや高いことが分かります。

### **3. 年齢構造**

総人口のうち、生産年齢人口（15-64歳）の占める割合は、2008年の62.0%から2013年には65.6%に上昇しました。これは、カンボジアが今後も経済成長を持続するために、大変有利な人口構造であると言えます。一方、高齢人口（65歳以上）も2008年の4.3%から2013年には5.0%に上昇しました。これは、未だ低い水準ではあるものの、カンボジアの高齢化が徐々に始まっていることを示しています。

### **4. 労働力人口**

15歳以上人口のうち、労働力人口の占める割合は、2008年の78.3%から2013年に79.8%に上昇しました。これも、カンボジアの持続的な経済成長に重要な影響を与える条件の1つです。

### **5. 最終学歴**

25歳以上人口のうち、高卒よりも高い学歴を有している人の割合は、2008年の1.8%から2013年には3.5%に上昇しました。これは、未だ低い水準ではあるものの、カンボジアの今後の更なる経済成長のためには、良い兆候と言えます。

以 上